

授業科目 聴覚障害III演習

【担当教員】		対象学年	3	対象学科	言語
山 口 富 一、吉 岡 豊		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 言語聴覚士として必要な聴覚障害関係の機器測定や評価・コミュニケーション手段について習得する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 補聴器の特性を測定できる。 2. 補聴器の調整器についてその特性を同定する。 3. 聴力の型に合わせて補聴器を調整できる。 4. 人工内耳の構造について説明できる。 5. 人工内耳マッピングができる。 6. 人工内耳の装用効果の評価ができる。 7. 盲ろう二重障害児・者の特徴について述べる。 8. 盲ろう二重障害児・者への援助方法について理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	補聴器特性測定装置で補聴器の特性を測定する。			1	吉岡（講義と演習）
2	補聴器のボリュームを変えて測定する。			2	吉岡（講義と演習）
3	補聴器の音質調整、出力制限を変えて測定する。			2	吉岡（講義と演習）
4	補聴器のイヤホン、ダンパーを変えて測定する。			2	吉岡（講義と演習）
5	聴力の型に合わせて補聴器の出力を調整する。			2	吉岡（講義と演習）
6	耳型を採取する。			3	吉岡（講義と演習）
7	補聴器装用効果の測定			3	吉岡（講義と演習）
8	人工内耳の構造と機能を理解する。			4	山口（講義と演習）
9	人工内耳の術前評価をする。			4	山口（講義と演習）
10	人工内耳のマッピング。			5	山口（講義と演習）
11	人工内耳のマッピング。			5	山口（講義と演習）
12	人工内耳の装用効果の評価（成人）する。			6	山口（講義と演習）
13	人工内耳の装用効果の評価（小児）する。			6	山口（講義と演習）
14	盲ろう二重障害児・者の特徴			7	吉岡（講義と演習）
15	盲ろう二重障害児・者への援助方法			8	吉岡（講義と演習）
【使用図書】		<書名>		<著者名>	<発行所> <発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		聴覚障害Ⅰ基礎編（改訂版）、Ⅱ臨床編（改訂版）		山田弘幸、佐場野優一 編	建帛社 2007・2,500円＋税
参考書		改訂第2版 補聴器フィッティングの考え方 アドバンスシリーズ・コミュニケーション 障害の臨床7 聴覚障害		小寺一興 日本聴能言語士協会講習 会実行委員会	診断と治療社 2006・3,200円＋税 共同医書出版社 4,000円＋税・ISBN4-7639-3027-3
その他の資料		必要に応じてプリント配布			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
演習なので4/5以上の出席を単位取得の前提とする。レポート提出50%、定期試験50%で評価する。					